

現地の大学生と生活し、歴史や文化、自然を学び、 新しい自分と出会う

≫金城学院「アメリカ語学研修」



訪問先	アメリカ・ハワイ州
対象	中3～高3(出発時)
期間	7月後半からの11日間
出発までの準備	①事前学習 ②保護者説明会の実施 ③渡航手続き説明会の実施
帰国後の活動	記録文集の制作 文化祭での報告パネルの展示
引率	教員2名(中学1、高校1)
費用	約60万円

金城学院（愛知県名古屋市）は、学校の教育目標の一つ「国際理解の教育」に基づき、2003年から毎夏、ハワイ州で11日間の語学研修プログラムを実施しています。プログラムでは、現地の人たちとの深い交流のなかで、英語の運用能力向上だけでなく、異文化理解の促進、歴史や文化に関する知識の拡充、コミュニケーション力や問題解決力などの「生きる力」を実践的に育成することを目指しています。

「プログラムの一番の特色は、ハワイ大学マノア校を滞在中の研修拠点に、現地の大学生と24時間寝食を共にする体験型の英語学習です。参加者は、大学生との共同生活の中で、生きた英語をリラックスした環境で実際のコミュニケーションを通して学び、友情も育みます。ハワイの国際的な観光地である地の利も活かし、学習価値の高いさまざまな場所を訪問し、見聞を深め、現地の人たちと会話をし、自分自身で何かを考える体験をさせています。

現地の研修は、英語セミナー、フィールドワークの事前学習およびフィールドワークの3部構成。フィールドワークでは、ハワイの歴史や文化を体験するほか、真珠湾攻撃の目撃者から直接当時の体験談を聞き、日米の平和について対話を通して学びます。また、現地の日系人と交流し、その人のライフストーリーを通して、古来の日本人の良さの再発見や多民族社会に対する理解を深めるなど、研修先の地域的な資源を活かす工夫をしています。（国際教育課 地頭綾香先生）

募集告知～参加者決定まで

参加者の決定は、毎年7月末の出発に向けて、前年12月に生徒や保護者への説明会、1月に2週間程度の募集期間を経て、2月に希望する生徒の面接をし、24名程度を選抜。部活動や生徒会で活動している生徒には、申し込み前に両立が可能かについて顧問の先生に相談するように指導も。

【金城学院高等学校・中学校事例】

語学と研修先について学ぶ多面的な準備研修

4月からの3か月間にわたり、週1回放課後に英語運用力を磨く講座（各回2時間）、ハワイの歴史・文化・社会に関する基礎知識を習得する内容の講座（各回1時間×5回）を行い、現地研修に自信を持って臨み、成果を最大化できるようサポート。

プログラム参加への生徒の思いと保護者の期待

このプログラムの参加対象は、中学3年生から高校3年生（出発時）。「初めての海外体験」になる参加者がほとんどだそうです。金城学院は、イギリス イートンカレッジサマースクールへも毎夏、高校生を派遣しており、このプログラムへの挑戦も見据えて、まずはハワイ研修で自分の力を試してみたいことを理由に応募するケースも多い一方、保護者の皆さまからは、英語の運用力向上以上に、異文化社会の中での共同生活を通し、「身の回りのことを自分でする」、「食事をつくる」、「お金の管理をする」などの経験からわが子に「自立」を意識する機会にして欲しいという期待も高いといえます。

金城学院のアメリカ語学研修はすでに50回も実施している伝統のプログラムです。元々はフロリダ州での研修が、2003年以降はハワイでの研修に変わりました。

